

喫煙と子宮頸がんリスク：日本の疫学研究に基づく関連性の評価

Cigarette smoking and cervical cancer risk: an evaluation based on a systematic review and meta-analysis among Japanese women

2018 年 Japanese Journal of Clinical Oncology 発表

喫煙によって子宮頸がんのリスクが確実に高くなる

「科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」研究班では、主要なリスク要因について、がん全般および肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝がんなどのリスクとの関連を調べた国内の疫学研究を収集し、個々の研究についての関連の強さの認識と科学的根拠としての信頼性の総合評価を行っています。（研究班ホームページ：https://epi.ncc.go.jp/can_prev）

その研究の一環として、このたび、喫煙と子宮頸がんリスクの関連について、先行研究をレビューし、総合評価を行いました。本研究では、レビューの結果および生物学的機序を総合的に検討した上で、日本人において喫煙による子宮頸がんのリスク上昇についての科学的根拠は確実であるという結論になりました。

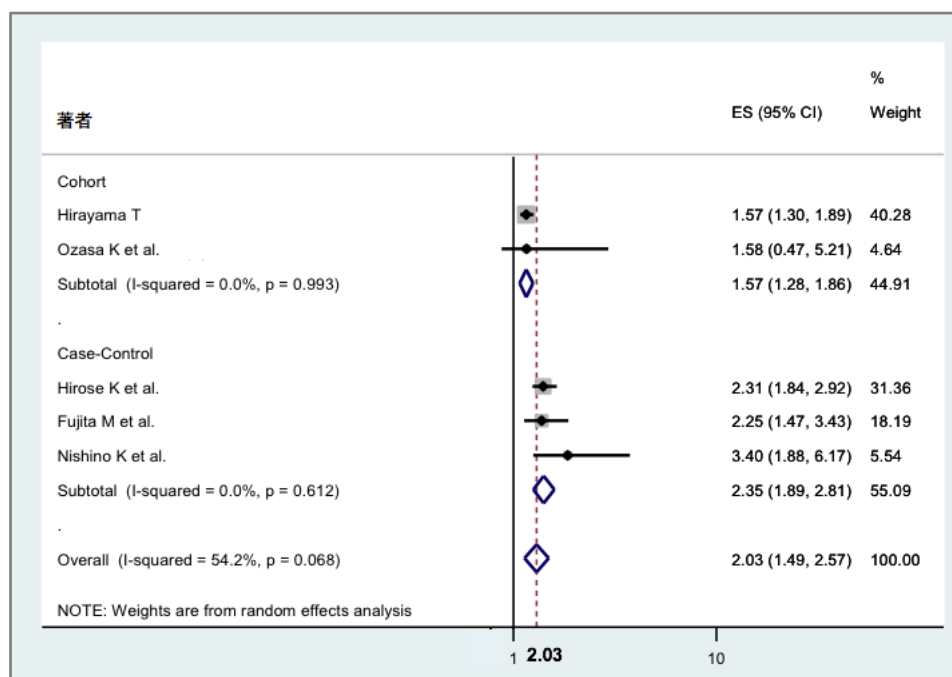
研究の背景

国際がん研究機関（IARC）による評価では、たばこに含まれている多くの物質は発がん因子としてグループ1に分類されています。また、喫煙と子宮頸がんの因果関係については、国際的には多くの疫学研究があり、喫煙が子宮頸がんの罹患や死亡リスクを増加させることが報告されています。しかし、欧米と比べて喫煙割合や性ホルモン関連要因が異なる日本人女性において喫煙と子宮頸がんのリスクの関連性は異なっている可能性があります。そこで、研究では、これまでに報告された複数の疫学研究の結果から、日本人女性における喫煙と子宮頸がんリスクの関連をまとめました。

研究方法

初めに、2018 年までに喫煙と子宮頸がんの関連について報告された日本人を対象とした疫学研究の中から、一定の評価基準により、コホート研究2件と症例対照研究3件を選択し、レビューしました。その結果、これら5件の研究の全てが、喫煙により子宮頸がんリスクが有意に増加することを報告していました。また、コホート研究2件および症例対照研究2件では、喫煙と子宮頸がんのリスクとの間に量反応関係がみられました。

次に、喫煙による影響を推定するため、各研究を統合してメタアナリシスを行ったところ、非喫煙者に対する喫煙者の相対リスクは2.03（95%信頼区間 1.49–2.57）となり、統計的に有意に高くなりました。



メカニズムについて

喫煙が子宮頸がんの発がんに関与する生物学的メカニズムは、たばこに含まれる多くの発がん物質が直接的に子宮頸がん発症に影響を及ぼす可能性が示唆されています。加えて、これらの発がん物質は免疫機能を低下させるため、HPV の持続感染を引き起こし、発がん性が高まることも指摘されています。

研究の限界について

本研究では、喫煙量の測定は研究間で異なっていたため、量反応関係を見ることができませんでした。また、パートナーからの受動喫煙や HPV 感染などの重大な潜在的交絡因子に対して十分な調整が行われていないことがあげられます。
